

平成30年12月27日(木)

### 年の瀬

年の瀬が押し詰まってきた。もはや、あと四日で新年を迎えることになる。今年はいろんなことがあった年だった。

まず、磐城高校に帰ってきた。40年ぶりに親と同居した。様々な大会に行くことができた。生徒たちと同じ空気を吸うことができた。毎日、駅まで歩いて生徒とともに学校に通うことができた。八幡神社に毎日お参りすることになった。春夏秋冬、校舎の中を歩いて、授業の今を感じることができた。校長便りも、何とか続けることができた。授業も2年生を中心に何度かすることとなった。

1週間に平均で1回、多い時は3回出張があり、都合50回程度福島に通った。いろいろな会議に参加した。全国校長協会の会議に出ることとなり、様々な状況を知ることができた。今の教育課題を県内の校長たちと共有することができた。

来年の種をたくさんまくことができたかな。生徒の心の今を十分に知ることができたかな。満足する学校生活を送らせることができたかな。とても不安なことたくさんある。

それでも、前を向いていこうと思う。焦らず慌てずあきらめず、明日を信じていこうと思う。

生徒の力はいつの時代も偉大である。どんなこともいつだって成し遂げてしまおう。一人一人に宿る磐城高校の魂を信じよう。きっと来年こそたくさんいいことがあるはずだ。きっと間違いなく一人一人が頑張るはずだ。





できることを全力でやっつけていこうと思います。来年もよろしくお願ひします。

校歌

作詞 西村岸太郎  
作曲 渡辺貞夫

一、峰は秀づ 赤井嶽  
水は清し 夏井川  
ここ警陽の 学び舎に  
ああ樂し 我等ともがら

二、真鉄や熔けん 夏の日も  
膚や裂けん 冬の夜も  
自覚の眼 生くるとき  
つとめ励みて 我等挽まじ

三、鍛へや腕 この山に  
すすげや心 この水に  
理想の空は 高くとも  
北斗はあかし 希望の光